



Tokyo Tech

図書館サポーター×Twitter企画第1弾

すずかけ台キャンパス開設47年記念

東京工業大学 すずかけ台図書館今昔物語

東京工業大学附属図書館

図書館サポーター 齋藤 優人作成

Twitter公開：2022年11月-12月

はじめに

「東工大図書館」と聞くと、チーズケーキでおなじみの大岡山図書館を想像する人が多いのではないのでしょうか。特に大岡山キャンパスに通っている皆さんの中には、すすかけ台キャンパスに図書館があるということすら知らない方もいるかも知れません。普段はなかなか注目されることのない(?) すすかけ台図書館ですが、この企画では、そんなすすかけ台図書館に思いっきり焦点を当てていきます。



すすかけ台図書館 (S3棟) 外観写真 図書館所蔵資料

すすかけ台図書館の丸窓



すすかけ台図書館の特徴といえば、まるで潜水艦を思わせる丸型の窓！2021年のリニューアルで断熱材が設置されて窓の内側の壁が厚くなり、より潜水艦らしくなったともっぱらの評判です。

この窓は1979年の図書館建設当時から2022年の今に至るまで、すすかけ台図書館とキャンパスを見守り続けています。

すずかけ台キャンパス のはじまり

すずかけ台キャンパスは、研究所施設の拡充と、横割り型教育を推進する総合理工学研究科の設置などを目的に1960年代から計画が進められ(計画開始当時は周囲の地名から岡部地区、その後長津田地区に計画名称変更)、1975年に長津田キャンパスとして開設されました。

1975年9月から施設の完成した研究所・専攻の移転が開始されましたが、まだキャンパス内の各地で建設工事が進められていたほか、周囲には多摩丘陵の里山風景の残る牧歌的な光景が広がっていました。



仮舗装前の「すずかけ通り」

長津田キャンパス開設当時のすずかけ通り
(すずかけ門からの歩行者専用道)

出典

長津田キャンパス：移転実施にあたって、
東京工大クロニクル. 1975, 号外, p. 5

長津田キャンパス開設時の図書館事情

1975年のキャンパス開設に合わせて、総合研究館(現S1棟)2階に附属図書館長津田分室が設置されました。

分室とある通り、設置当初は長津田独自の蔵書は殆どなく、図書を利用するには学内便(平日2往復・土曜1往復)を通じて資料を大岡山から取り寄せる必要がありました。

このような事情から、長津田地区の各部局でも独自の図書室を設置して専攻に関連した図書・雑誌の収集を行っていました。



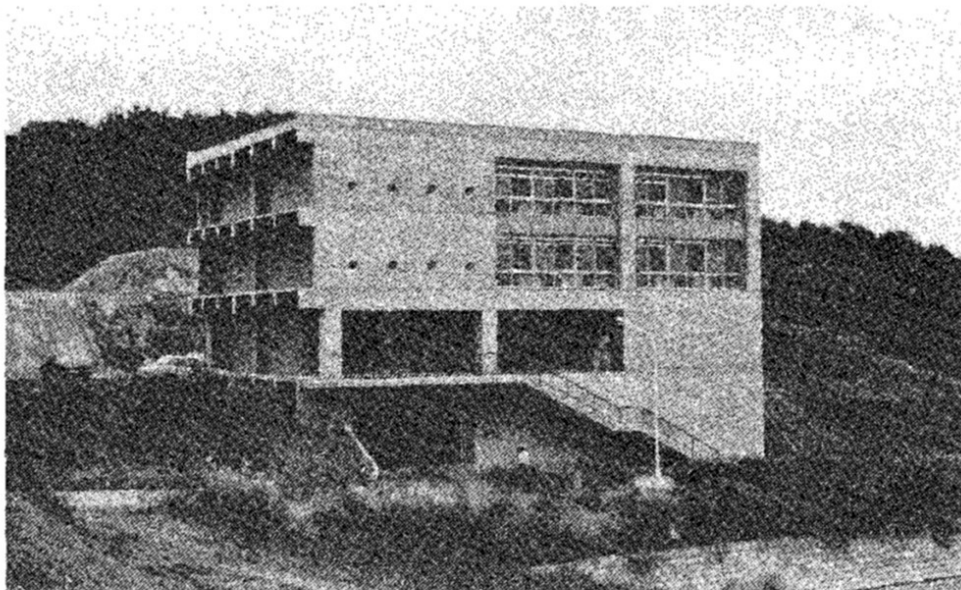
現在の総合研究館 (S1棟) 外観写真 図書館サポーター撮影

長津田分館開設前夜

この不便な状況を解消すべく、図書館の建設に向けた計画が進められました。1977年に撮影された写真では、すでに今の図書館建物(S3棟)の南側一部が竣工しています。しかし、画像についてのキャプションを見ると...食堂？

実はS3棟南側は食堂や購買・公用車車庫などの厚生用施設として建設されました。食堂もキャンパス設置当初は図書館と同じく総合研究館の談話室に間借りしていましたが、部局移転が進むに連れて手狭となり、S3棟の部分完成に伴い図書館に先立って移転しました。

S3棟での食堂や購買の営業はすずかけホールの完成する2002年まで続きました。



▲食堂

食堂ほか福利厚生施設として先行して建設されたS3棟南側
出典

今後一年間の施設設備の状況について. 東京工大クロニクル. 1977, no. 98, p. 9



▲昼食時間は満席の盛況・総合研究館内食堂

S1棟に間借りしていたころの大学食堂
出典

長津田キャンパス：動き出した長津田キャンパス. 東京工大クロニクル. 1975, no. 75, p. 2

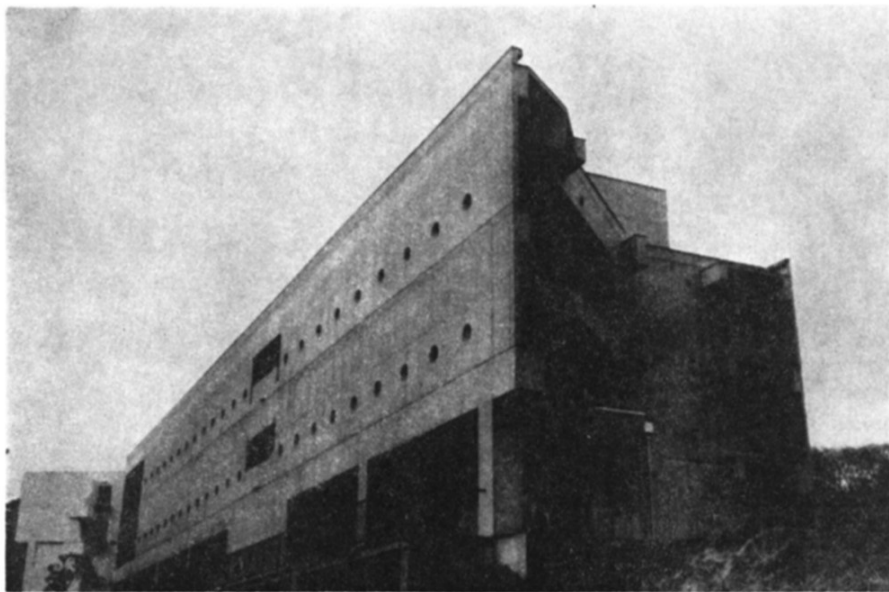
附属図書館長津田分館の開設

長津田分館の完成は、食堂の完成から約2年後のことです。長津田キャンパスの建築を幅広く手掛けた建築学科の谷口汎邦助教授(当時)が基本設計を務め、1979年4月3日に開館しました。

これによって長津田地区にも1万冊以上の蔵書や閲覧席100席が整備され、大学図書館機能が大岡山地区同様に有されるようになりました。

また、順次各部局の図書室機能も統合されました。

当時の外観写真を見ると、あれ、なんだか建物の角が尖っている...？



長津田分館開館当時に撮影された外観写真
出典

高橋 柏. 新館紹介：東京工業大学附属図書館長津田分館. 大学図書館研究. 1979, 15, p. 94

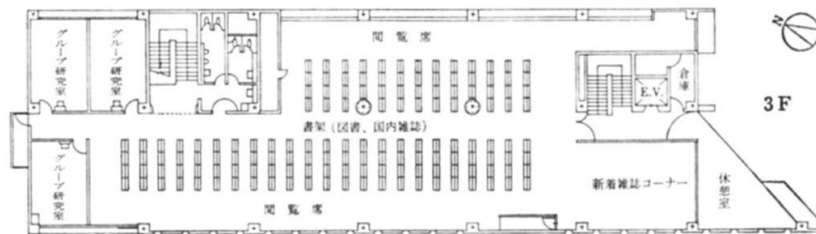


同様の画角から撮影した現在の図書館外観写真 図書館サポーター撮影

開設当時の分館平面図

図面は開設当時の図書館3階平面図ですが、今の平面図と比較してみると、建物中央部が欠けています。また、当時の空撮画像をよく見みると食堂部分と図書館部分が繋がっていないことがわかります。文部省の予算の都合で、S3棟は当初計画(面積約2800 m²)通りに建設することができず、一部縮小した状態(約2300 m²)でスタートしました。

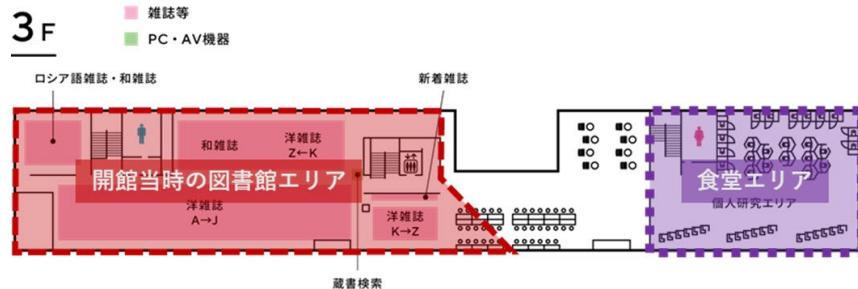
1979年7月からは、大学院生を要員とした夜間開館も始まるなど、長津田地区の規模拡大に合わせ、大岡山に負けない図書館づくりが進められました。



開館当時の長津田分館3階平面図

出典

高橋 柏. 新館紹介：東京工業大学附属図書館長津田分館. 大学図書館研究. 1979, 15, p. 95



2022年現在のすずかけ台図書館3階平面図 2022年版図書館セルフツアーマップに加筆



1980年頃撮影された長津田キャンパス空撮画像 (キャンパス南東側より撮影)

出典

東京工業大学建築学科記念誌編集WG編. 東京工業大学建築学科1902-2015. 2016, p. 14

広がりゆく長津田分館

1979年の開館以降も、S3棟の増築に向けた取り組みが進められました。当時図書館長を務めていた井上英一教授が各部局を回って増築費用の拠出をお願いするなど、図書館や長津田地区の関係者の努力が実を結び、1981年の10月に増築工事(約500 m²)が完了し、S3棟は当初計画通りの建物として完成しました。



増築工事後のS3棟外観写真 (1982年頃撮影)
図書館所蔵資料

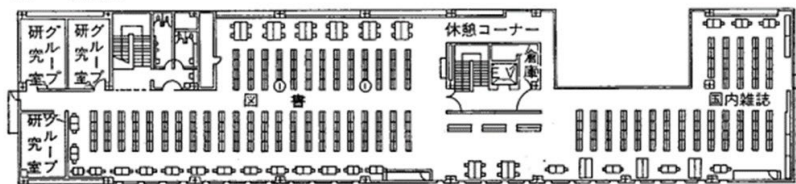


1982年頃の長津田分館1階カウンター・目録コーナー
図書館所蔵資料



1982年頃の長津田分館3階閲覧席
図書館所蔵資料

3F 平面図



増築工事後の長津田分館3階平面図 (1985年当時)
出典

東京工業大学. 東京工業大学百年史. 部局史, 東京工業大学. 1985, p. 916

今も残る増築工事の名残

増築工事は当初計画をなぞる形で実施されたため、既設部分との調和が取れたデザインで設計・建築されました。

また、開館以来たびたび行われた改装・リニューアル工事や、2020年の全面改修工事を経た今、増築の行われた痕跡はそのほとんどが失われました。しかし、その名残は2階・3階の書架・閲覧スペースの天井に今も残っています。

斜めに走る梁は、建設当時はここまでしか建物が作られていなかったことを示しているのです。



3階閲覧席の天井を斜めに走る梁 図書館サポーター撮影

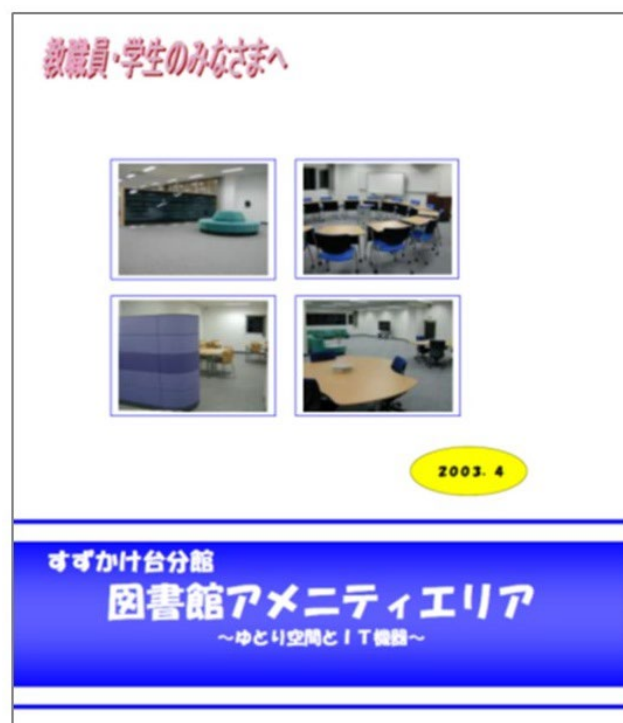
厚生施設の移転とすずかけ台分館の拡張

S3棟の完成から30年あまり経過した2002年、すずかけ台キャンパス(前年に長津田キャンパスより改称)の中心に学生会館(すずかけホール)が完成し、生協・食堂が移転していきました。

すずかけ台キャンパスの交流の中心としての役割を終えたS3棟ですが、図書館としては新たなスペースが生じたこととなります。多くのスペースを図書館の新エリアとして活用することとなり、電子図書館閲覧用のパソコンや自習スペースを擁するアメニティエリアが設置されました。



東工大電子図書館 (Titech Digital Library; TDL) 利用のために設けられたTDLコーナー
図書館所蔵資料



2003年の図書館アメニティエリア開設時に
配布された利用案内パンフレット
図書館所蔵資料

ペリパトス文庫の誕生

2007年には当時の大学院総合理工学研究科から支援を受け、すずかけ台分館独自の施設として、新刊小説や文庫本・新書・旅行ガイドといった、これまで東工大図書館ではほとんど所蔵されていなかった書籍を備えるペリパトス文庫がオープンしました。

数度の改装・移転を経た今もすずかけ台で生活する多くの人へくつろぎのひとときを提供しています。



2007年開設当時の3階ペリパトス文庫
図書館所蔵資料

老朽化の進んだすずかけ台分館

2010年代に入り、大岡山にはチーズケーキの愛称で親しまれる新図書館が開館(2011年7月)しました。

すずかけ台分館でも数度の改装・リニューアル工事を実施して、より使いやすい図書館づくりを続けていましたが、建物の完成から40年前後が経過し、内外装や設備の老朽化が否めなくなってきました。



2014年の1階リニューアル工事にあわせて1階に移転したペリパトス文庫
図書館所蔵資料



2015年の3階リニューアル工事後に誕生したコミュニケーションエリア
図書館所蔵資料

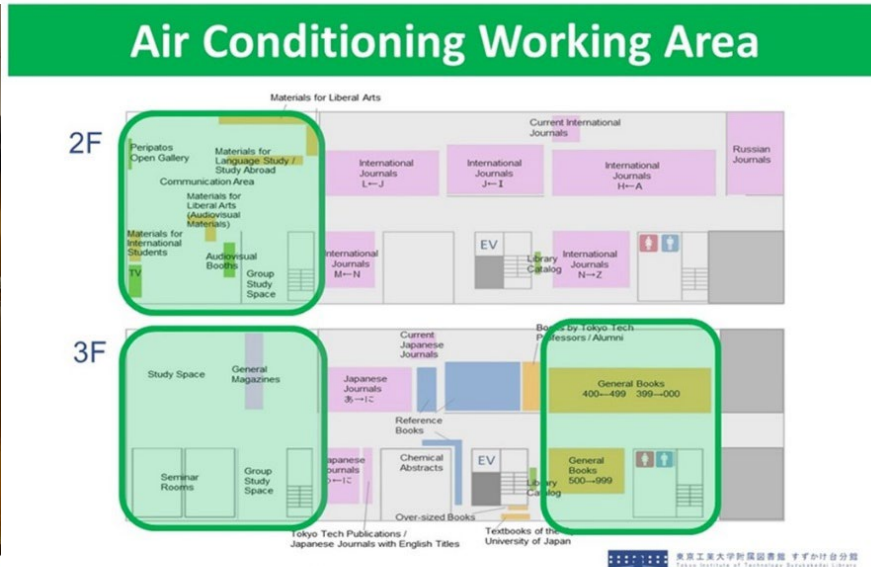
すずかけ台分館不具合事例集

2017年には天井が水漏れで崩落し、天井片と水によって蔵書を汚損する事態が起きました。

2019年には空調設備に故障が発生し、別系統だった旧食堂・購買部分を除くほぼ全館で空調が使用できなくなりました。キャンパス内各地の空室に設置されていたエアコンを臨時に移設し、利用者の多い一般図書のエリアで空調を再開しましたが全域をカバーするには至らず、利用者に不便をかける状況がしばらく続きました。



2017年に発生した水漏れによって崩落した天井と応急処置が施された書架
図書館所蔵資料



2019年に発生した空調故障時に利用者へエアコン稼働エリアを案内したピラ
図書館所蔵資料

分館大規模改修工事と仮設分館

老朽化により頻出する問題を抜本的解決し、設備を現代の基準へとアップデートすべく、2020年4月から分館を約1年間休館し、全面改修工事を行うことになりました。工事に際しては利用者の利便性を保つために、大岡山の蔵書の受け取り・返却サービスを継続して提供するほか、2020年6月からは仮設分館をR3-D棟に設置し、利用頻度の高い一部蔵書を配架することとしていました。

工事タイミングがコロナ禍と重なったこともあり、2020年4月からは大岡山本館共々約2ヶ月の休館を余儀なくされるなど、予定の変更が多々起こる困難な状況になりました。

そのような二重に困難な状況であっても、出校制限が緩和された2020年6月から、仮設分館を開館し、利用者へのサービスを継続しました。



改修工事に伴うすずかけ台分館長期休館に際してR3-D棟に設置された仮設分館
図書館所蔵資料

「すずかけ台図書館」の開館

2021年7月に改修・リニューアル工事が完了し、図書館がS3棟に戻ってきました。

再開館に際し、従来大岡山本館・すずかけ台分館と称していた附属図書館各館の名称を、大岡山図書館・すずかけ台図書館と改めました。

附属図書館長津田分室の設置から46年、これまで大岡山図書館の分館という位置づけであったすずかけ台図書館は、ついに大岡山と並び立つ独立した図書館となったのです。



リニューアルオープンに伴い改称・更新されたすずかけ台図書館案内
図書館所蔵資料

新しくなった「すすかけ台図書館」

新しくなったすすかけ台図書館では、電子ジャーナル化の進む雑誌を中心に蔵書を見直し、新しくなった書架に将来の図書受入にも対応できるようゆとりを持って蔵書を配架したほか、閲覧席の拡充も行いました。



リニューアルに際して新設された書架 図書館所蔵資料



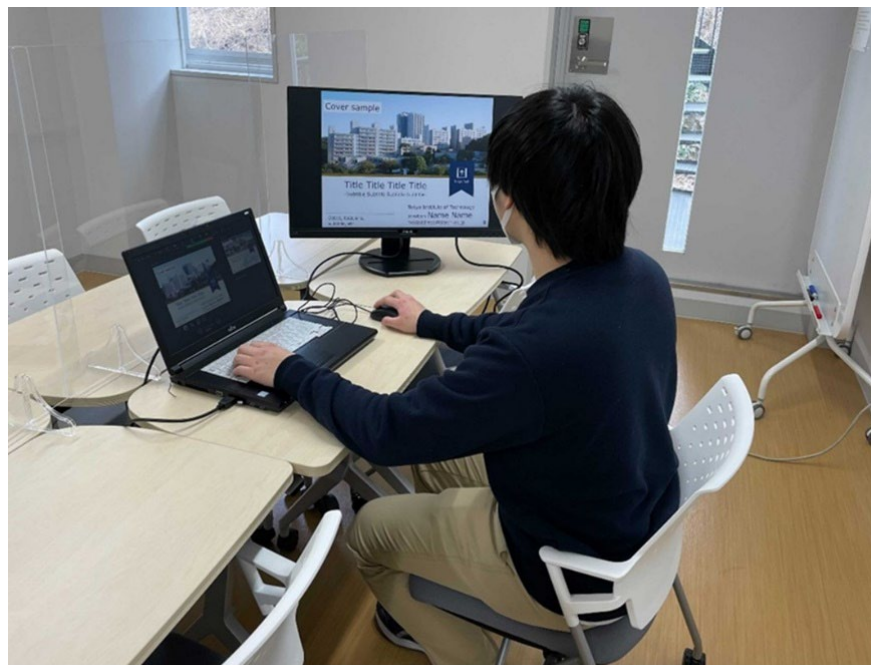
キャンパスを一望できリフレッシュにも最適な3階閲覧席 図書館所蔵資料

新たな需要に応える図書館施設

また、オンラインによる講義や会議の増加に対応して、新たに個人・グループで使用可能なセミナールームを6部屋設置しました。

セミナールームは全学システムから予約することができ、Web化が急速に進む就職活動などにも広く活用されています。

また、集中して文献調査や執筆に取り組むことができる個別ブース型デスクなどを設置した個人研究エリアも拡張し、様々な需要に応えられる図書館を目指しています。



発声可能でWeb会議や講義受講・就職活動にも利用できる2階セミナールーム
図書館所蔵資料

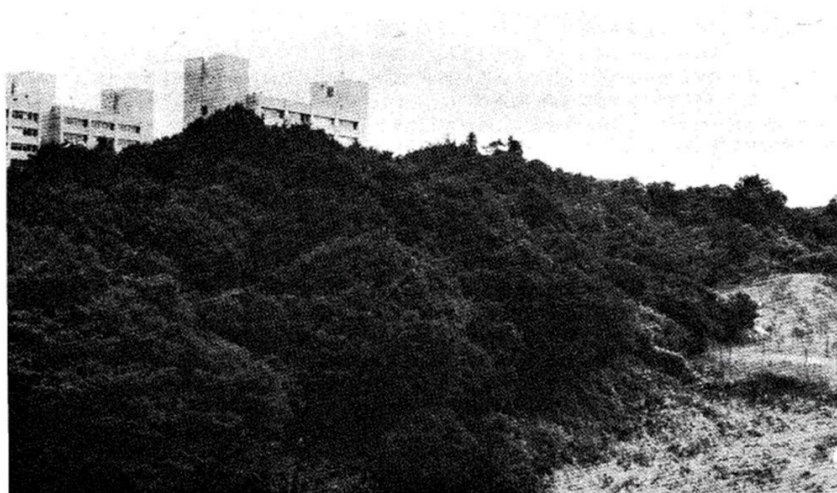


新たに個別ブース型デスクなどが設置された3階個人研究エリア 図書館所蔵資料

すすかけ台とすすかけ台図書館のこれから

このスライドではすすかけ台図書館の歴史をご紹介してきましたが、お楽しみいただけましたでしょうか。

2022年はキャンパス最寄り駅のすすかけ台駅が開業50年の節目の年を迎え、大学の統合、というビッグニュースが飛び込んで来た年でもありました。今回はすすかけ台図書館の歴史を中心にご紹介しましたが、ぜひ皆さんもこの機会にすすかけ台・東工大の歴史に思いをはせてみるのはいかがでしょうか。



附属図書館分館から雑木林、大学院2号館、3号館を望む

長津田分館から望む長津田キャンパス加藤山方面の景色 (1979年当時)

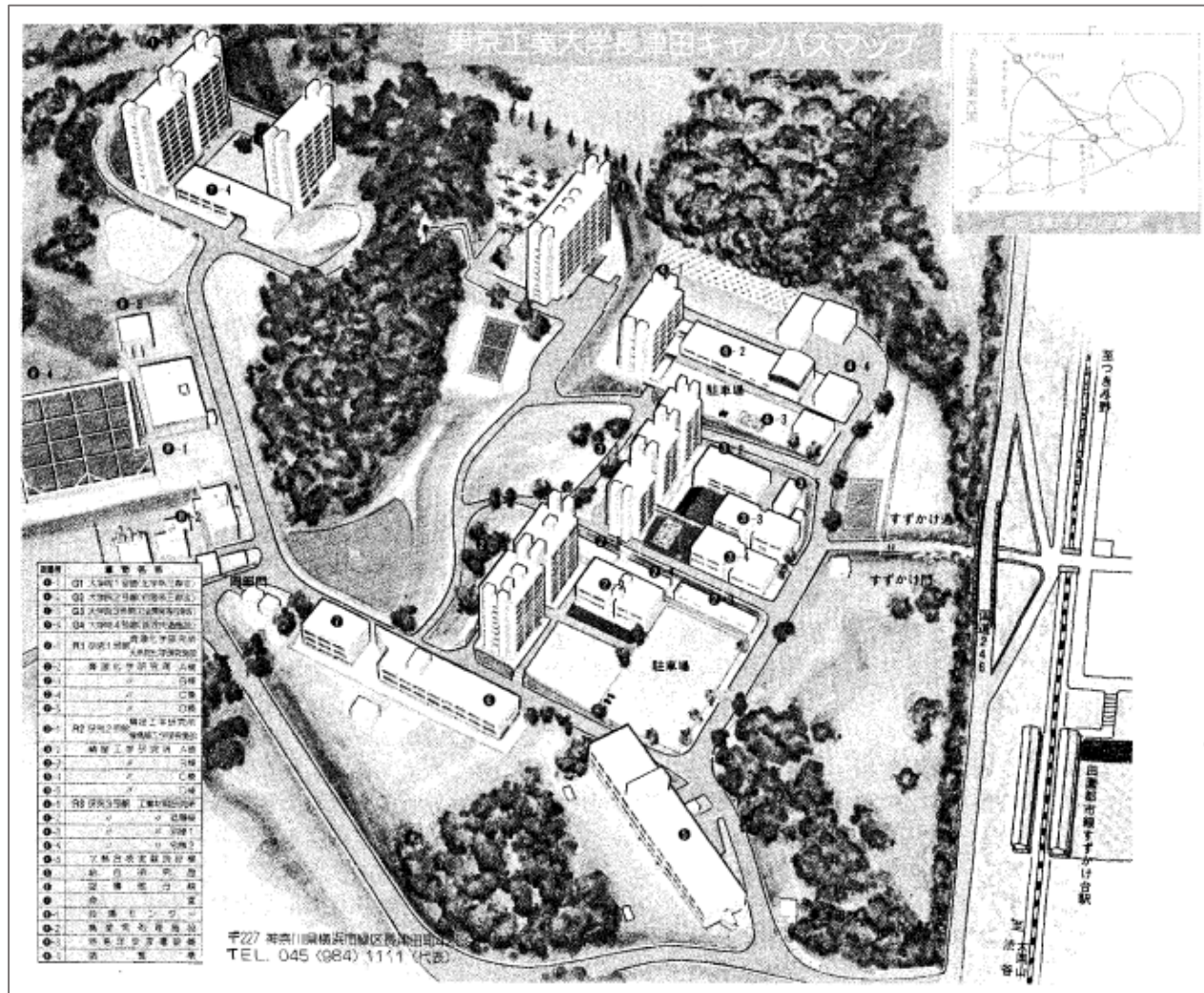
出典

明畠 高司, 長津田キャンパスの雑木林, 東京工大クロニクル, 1979, no. 119, p. 5



すすかけ台図書館から望むすすかけ台キャンパス加藤山方面の景色 (2022年現在)
図書館サポーター撮影

おまけ：昔なつかし長津田キャンパスマップ



1979年の移転完了当時の長津田キャンパスマップ